

2013 年度末 サロン 2002 総会報告

【日 時】2014 年 2 月 23 日（日）15：00～16：00

（終了後 17：10 まで「法人化についての意見交換」。その後「ルン」～23：00 ごろ）

【会 場】筑波大学附属高校 3F 会議室

【議決成立要件】2013 年度会員数 177 名（会費未納者 28 名含む）

出席（予定）者 13 名、欠席連絡かつ委任状提出者 88 名、合計 101 名で、総会は成立する。

【総会出席者】 14 名

安藤裕一、浦和俊介、奥山純一、金子正彦、河原工、岸卓巨、笹原勉、佐藤一朗、嶋崎雅規、白井久明、白髭隆幸、田中俊也、中塚義実、本多克己

【総会後の「法人化に関する意見交換会」から出席】 藤田稔人

【「ルン」から参加】 大河原誠二 注) ルンは 17：30～23：00 ごろまで

◆【総会欠席連絡者】91 名（うち委任状提出は 88 名、うち議決権行使書提出は 71 名）

朝倉雅史、麻生征宏、安部久貴、猪狩翔、伊田翔平、井田征次郎、伊藤慧、井上俊也、今廣佳郎、上野直彦、牛木素吉郎、宇都宮徹老、江川純子、梅本嗣、大河原誠二、大橋二郎、岡村理恵、奥崎寛、小澤響平、小幡真一郎、賀川浩、笠野英弘、梶野政志、春日清彦、片上千恵、角脇拓也、加納樹里、河本雅彦、北川貞和、北原由、草葉達也、熊谷建志、小池正通、小池靖、齋藤健司、貞永晃二、佐藤清志、島原裕司、島村里実、清水諭、神宮司親治、鈴木崇正、関谷綾子、高崎康嗣、高田勝敏、高橋義雄、高原渉、高藤順、竹内傑、竹中茂雄、田中理恵、谷口昭彦、田村修一、茅野英一、塚田義、常木翔、土谷享、徳田仁、豊田幸夫、仲澤眞、名方幸彦、中川英治、中村敬、西村祥央、野田直広、半澤隆憲、福西達男、藤田稔人、麓信義、堀美和子、本郷由希、前田博子、松田保、松戸宏輔、松村健一、峯山典明、宮川淑人、宮城島清也、宮原陽介、宮本暁史、武藤太智、武藤文雄、村木初年、望月浩一郎、本杉亀一、森政憲、森元俊太郎、安松幹展、山内直、山下則之、由利英明、

<委任状提出者（88 名）内訳>

- 総会議長：11 名 ... 伊田翔平、春日清彦、小池靖、齋藤健司、田中理恵、仲澤眞、名方幸彦、麓信義、前田博子、松村健一、宮本暁史
- 中塚義実（含中塚理事長）：64 名 ... 朝倉雅史、麻生征宏、安部久貴、猪狩翔、井田征次郎、伊藤慧、井上俊也、今廣佳郎、上野直彦、牛木素吉郎、梅本嗣、大河原誠二、大橋二郎、岡村理恵、奥崎寛、小澤響平、小幡真一郎、笠野英弘、梶野政志、片上千恵、角脇拓也、加納樹里、北原由、小池正通、貞永晃二、佐藤清志、島原裕司、島村里実、清水諭、神宮司親治、鈴木崇正、高田勝敏、高橋義雄、高藤順、竹中茂雄、田村修一、茅野英一、塚田義、常木翔、土谷享、徳田仁、豊田幸夫、中川英治、中村敬、西村祥央、野田直広、半澤隆憲、福西達男、藤田稔人、堀美和子、松田保、松戸宏輔、峯山典明、宮城島清也、宮原陽介、武藤文雄、村木初年、本杉亀一、森政憲、森元俊太郎、安松幹展、山内直、山下則之、由利英明
- 中塚先生（含中塚さん、中塚様、中塚氏）：5 名 ... 宇都宮徹老 高崎康嗣、竹内傑、谷口昭彦、武藤太智
- 本多克己氏：4 名 ... 賀川浩、北川貞和、本郷由希、宮川淑人、
- 岸卓巨：1 名...熊谷建志 ●宮川委員：1 名...河本雅彦 ●白井久明：1 名...望月浩一郎、
- 委任先不明：1 名...関谷綾子

<「欠席」とのみ連絡＝委任状未提出者（3 名）>

江川純子、草葉達也、高原渉あ

<参加者自己紹介>

中塚：出席者の自己紹介をまずしましょう。サロン 2002 理事長の中塚義実です。

佐藤：佐藤一朗です。DUO リーグのトロフィーを製作いたしました。スキンプロジェクトのほうでもかかわっております、プロジェクトになる前に一度発表をしております。職業は靴職人です。

金子：金子と申します。5 年ほど前より参加しております。入会したきっかけは 2008 年 1 月に日本青年館で開かれた、今は町田ゼルビアになっている町田 FC の代表の方と宇都宮さんのシンポジウムに参加したことでした。

勤務先は全農という農協の親玉のような組織でして、日本全国を転勤などで回りましたが地方はかなり寂れております。そのなかで、J3 グルージャ盛岡を作った中にも全農の者もおりまして、地方におけるサッカーはクラブ設立を通じて日本を活性化しているサロンはというネットワークは近いなと考えて参加しております。法人化するというところでいろんなことができる組織になると考え

ております。

安藤：安藤です。中塚理事長とは筑波の「つくし荘」という汚いアパートからの付き合いです。専門はハンドボールで母校のOB会の会長をして後輩の面倒を見ております。

嶋崎：帝京高校の嶋崎と申します。専門はラグビーでしてサロンにはフットボールの仲間として同じ志を持って違うフィールドで関わっております。

本多：本多です。今日は関西からから重たい委任状を背負ってまいりました

奥山：奥山です。インターネットのサービス、システムを作っております。

白井：白井です。弁護士をしております。サッカーにそれほど興味があったわけではないのですが仕事の関係で関わることもあり、今回は委任状を出そうと考えていましたが私宛の委任状が出てしまい参加しました。

河原：はじめまして 河原工（たくみ）と申します。中塚さんの大学とサッカー部の後輩になります。卒業後は銀行を経てここ15年は途上国で開発コンサルタントを JICA とかアジア開発銀行とかを通してしております。年の半分は海外におります。途上国でスポーツをつうじて豊かにしようと思いがかりサロンの志にも近いかなと 仕事のほうも落ち着いてきたので積極的に関わろうと考えております。

笹原：笹原です。中塚さんの大学の一年後輩で、私はサッカー同好会でしたがテレビを持っていない仲間ワールドカップを一緒に見てからの付き合いです。サロンも初期からの参加です。勤務先は日揮で、行った先でサッカーをしてそのことは発表もしております。

浦和：浦和です。ラグビー関係の小売会社に10年ほど勤務しておりましたが思うところがあり介護関係の資格を取るために学校に通っております。スポーツとの関わりは高校、大学とラグビーをプレーしておりました。ラグビー界でも2019年の後に何か残せればと個人的には考えておりますが今は自分のことで手一杯です。

岸：岸と申します。先週は台風被害のあったフィリピンのレイテ島で活動しておりました。明日から3月末までケニアで活動する予定です。協力隊参加時にケニアでサッカークラブを立ちあげ代表を近くの学校の副校長にお願いしていたのですが私が帰国したあと異動になってしまいそのクラブが存亡の危機に瀕しています。ケニアでも日本と同じようなことが起きるのだなと感じております。サロンには事務局役や理事として関わっております。

中塚：出席者のところの白髭さんと田中さんは遅れてこられるかと思えます。また、ここには名前がありませんが、今年度下半期入会の大河原さんも遅れての参加との連絡をいただいております。

<議長選出および委任先の確認>

中塚：この会の議長は、サロン規約第11条3項により、理事長の私が務めます。

参加者については、お配りした資料の通りです。

委任状提出者88名のうち、議長に委任された11名と中塚義美、中塚理事長に委任された64名、計75に私は委任されております。中塚が二人いてどちらか判別できないのですが、中塚先生、中塚さんと書かれた方が5名、本多さん4名（賀川さん、北川さん、本郷さん、宮川さん）、あとは岸さん、宮川委員、白井さん、委任先不明となります。

＜総 会＞

サロン 2002 では、設立直後から法人化についての議論が行われてまいりましたが、2013 年 5 月の総会において、法人化を目指すことが正式に決定され、法人化プロジェクトチーム（以下「PT」と称する）が結成されました。

PT は具体的な法人化後の姿を検討して、2013 年 12 月理事会に「従来のサロン 2002 を NPO 法人化する」という提言を提出しました。

提言を受けた理事会での議論と並行して、サロン 2002 メーリングリストなどによる会員による議論がなされ、「従来のサロン 2002 を維持し、事務局組織を NPO 法人化する」という案も提示されました。

会員の皆様からは、両案に対する賛否、会員の合意形成プロセスについてのご指摘、NPO 法人の設立準備に関するアドバイスなど、多くのご意見をいただきました。

今までの議論を踏まえて 2 月 9 日に理事会を開催し、NPO 法人化を含めたサロン 2002 の将来にかかわる方針について、以下の通り総会に附議することを議決しました。監事の監査を受け、茲に附議いたします。

よろしく議論いただきたく存じます。

第 1 号議案 法人化の準備について

法人化の内容、現行サロン 2002 のあり方について更に検討を進め、以下の通り法人化の準備を行いたいと存じます。ご承認をお願いいたします。

- 2014 年 5 月の定期総会にて、サロン 2002 の将来にかかわる方針を決定する。
- 検討の対象とする法人形態は特定非営利活動法人(NPO 法人)とする。
- 現行サロン 2002 の設立宣言の趣旨を維持することとする。
- NPO 法人設立準備委員会を設置する。同委員会は理事会に提言を提案、定期総会に先立つ理事会で承認した議案を総会に付議する。
- 同委員会の委員長は中塚理事長とし、委員会は理事、専門性を持つ会員だけでなく、本件に関心を持つ会員に広く門戸を開く。

（ここまで「議案および参考事項」より引用）

1) 会員からの意見紹介

中塚：事前にいただいた意見について取りまとめてくれた岸君のほうからお願いします。

岸：2 月 23 日時点で取りまとめたところ、第一号議案は賛成 47 名、反対 2 名、委任 20 名、棄権 2 名でした。それぞれお名前といただいた意見をリストにして資料としてお渡ししております。

たとえば棄権だと、宮川さんと高原さんから意見をいただいております。

宮川さんからは「議案に関しては更なる説明をメーリングリストで求めましたが、説明をいただいておりますので判断できかねますので当議案に対して棄権します。2014 年度のサロン 2002 が法人化されるのか、されないのかによります」という意味での棄権、もう一人の棄権者は高原さんですが「本議案は「法人化の準備をする」に対する承認と理解しております。ですが、事務局機能を法人化させるのか？法人化の準備には「2014 年度は法人化しない」との結論も可能性としてのこっているのか？がはっきりとわかりません。事務局の法人化自体は賛成です。それで事務局機能が高まるのならば歓迎です。」と頂いております。

反対も 2 票です。貞永さん、田村修一さん。この辺りも見た上で議論していたければと思います。

中塚：本多さんはなにか聞いていますか？

本多：特にありません。メーリングリストで皆さん見ていただいたとおりでと思います。

2) 準備委員会について

参加者：松村健一さんからの付帯意見で、法人化準備委員会の委員長を中塚理事長が兼任するのはおかしいのではといただいておりますね

中塚：これはおっしゃるとおりですね。

本多：理事長だから自分の意見を押し通すということはないですよ。ただ中塚さん以外が委員会をリードされたほうが中塚さんも自由な意見を出しやすいということはあるですね。

中塚：どなたかやっていたらこちらも楽でいいし（笑）。

一つはプロジェクトチーム（以後PT）をやっていたときの反省もあるわけですね。奥山さん中心にPTをやっていたときは、あえて私は関わらないようにして、理事からは笹原さんと岸さんに入っていました。その段階で会員から意見を出してもらって、理事会に上げてもらおうと考えていたのですが。

奥山：そしたら意見が全然出てこなかった。

中塚：そのうちプロジェクトのMLの中で、すごく質の高い意見交換が始まって、それが外に出ないというもったいない時期が続いていました。私からはその議論を全会員に伝えてほしいと何度も言っていました。12月中旬にプロジェクトからの答申が出て、それを踏まえて理事会で改めて議論し、会員に流したのが年末で、そこからですものね、会員からの意見が出てきたのが。

奥山：リアリティが出てきたのかなと。PTは有志の集いという扱いでしたが、年明けくらいかな、本格的に動き出してきて、皆さんの目が向いたら「何じゃこりゃ？」となって申し訳なかったです。

中塚：なのでこうならないように、本気度を維持しながら準備委員会を立ち上げたいというのは当初の案ですね。どうですかこの1号議案については。

3) 議案についての理解について

笹原：浦和さんや河原さんは今回の議論にそもそも理解が十分ではないかとも思いますがいかがですか？

河原：メーリングリストは読ませていただいていたいました。

浦和：メーリングリストを見ている中で、以前からサロンの中で語られていたことだなと感じてはいました。法人化したほうがいいというところで止まっているのかなと。

法人化することで何が変わるのかということが具体的に見えてきたら建設的な意見が出るのかなとは感じています。

中塚：PTのときからそうだし、理事会のところでも、議論している内容は昔から何も変わっていないです。ただ、ちゃんと立ち上げるためにもう少し手順を踏んだほうがいいと、議論していくなかで感じています。それはいいスタートを切りたいからです。

笹原：今日来ている方はともかく、いろいろ反対意見の方や分からないといっている棄権の方は、法人化してどうなるのかわからないのでは？

浦和：僕は正直わかってないです。今までの流れの中で法人化したほうがいいということは理解しますが、これだけの労力をかけて準備をしているのですが、法人化したことでどのようなメリットがあるかがメーリングリストを読んでいるだけでは見えてこないというのが私の意見です。

中塚：小池さんも同じようなことを書かれていますね。

4) 一号議案の論点の整理

白井：いろんな場面の議論が整理されずに五月雨で出ていて、全てオープンにすることはいいと思うのですが、どういうところで議論しているのかを分けて議論しないと、思いはみな違うのでイメージが違ってバラバラの意見が出ることになってしまう。

ある程度、準備する側のほうが論点を整理して提示しないと、その中で反対賛成出ると思いますが。

「基本的に何をするのか」から、「具体的にどうするのか」までが出てきて錯綜してきて議論が混乱すると感じています。

本多：「事業の内容が分かりません」というのと、浦和さんがおっしゃったように「なぜ法人化するのが分かりません」という意見があります。なぜ法人化するのかというのは、PT の中では、法人化すべきだという議論が済んでいる前提でスタートしていたので説明が不十分だったのではないのでしょうか。

事業案については確かに不十分でつめ切れていないので、会員の方が「事業案が分かりません」というのはその通りかなと思います。

白井：「こういうことをやりたいから法人化したい」のか、「今までの流れを検証しただけのところでは法人化するのか」というところが一つ。組織的に法人化したところと今までのサロンの会員とをどういう位置づけにするのか。多少想定案と途中でだいぶ変わってきているようですが、今までのサロン会員の活動をどうするのか、外枠に位置づけるのかとか、次の具体的なところででてくるのでは。色んなことは想定されるけど整理していかないと。その問題もあって「よくわかりません」「何をやりたいのかも分かりません。」となる。

笹原：先日の理事会でも話しましたが、今のままではだめだ、というのが基本的にあって、だから法人化しようというのが根底にある。では何がだめなのか。もう少しみんなが知れば「なるほど」となるのでは。

「ただのゆるやかな集まり」だと話しても、地方に行って知らない方にサロン 2002 がどのような団体化説明ができないというのが、現状の問題点です。「いつ、どのような場面で、誰に対して説明できなかった」などの具体的な例を挙げられませんか？。そういうのが積み重なると「それは大変だ」となる。

岸：今回は、総会と、法人化に向けての意見交換会に分けているのですが、この1「総会」は、何について賛成か反対かを聞いているかというのと、どのような形で法人化するのは意見交換会で話せばいいのですが、PT として3月までに法人の形を決めて、4月からは法人化したサロンで行くというと考えていたのを5月まで伸ばしてもう少し議論したほうがいいということで会員の方から意見を集めた上で「5月の総会で法人化について決めよう」という部分について審議したいという意図です。

白井：それだと2（法人化のための意見交換）とどう違うの？ あくまで2のことで今度について総会でどの程度決めるのか。このまま法人化するのか、もっと意見を聞いて、その上で5月で決めるのか。意見交換がなければ総会でも決められないですね。今日のところは分けなくてもいいのでは。

中塚：もちろんそうですが、整理したいのです。サロンとしてどこかで意思決定をして、もっと自由な準備委員会拡大版を、今日から準備委員会始まりというイメージです。

白井：今日、なんらかの形で総会で決めるのを躊躇しているのがメールでちらちら見えるのは、見えてないからここで賛成していいかわからない。でも委任状が来ているのは、とりあえず信頼して任せようという部分もあるのでしょうか。逆に反対かとか棄権している方、最終的には脱落していくのかもしれないけど、ある意味大事な方でもありますね。

笹原：理事会側の書き方が良くなかったかもしれないですが、「法人化はする、5月に決定する」という書き方になっていますが、「法人化するかしないか」「するならどのような形を取るか」を5月に決めるということなのです。それがうまく書けなかったことに対する質問でもあるのかなと。

5) 設立準備委員会の意味

奥山：1号議案のところ、設立準備委員会を設置するとありますが、私の中では理事会が直接やったほうがいいのではないのでしょうか。PT は権限がないため、「こちらから意見を集約して理事会に報告しても、理事会がNOといえれば全て無に帰る」のはきついと思いました。

今回はそういうことはなかったのですが、あくまでこちらは意見を上げるだけで決定権がないので、重みがないし責任の取りようもないもない、そしてリーダーシップも弱い。
今回、中塚先生が準備委員会と兼任というお話をされていましたが、理事会が受け皿になってはだめですか？そのほうがリアリティが出るかなと。

白井：準備委員会は別に決めるってことではなくて、こういう枠組みでこういう論点でと整理して理事会に意見を聞いて総会で決めてもらうということでは？

浦和：いきなり理事会にしてしまうと、拒否反応を示して議論に入ってこなくなってしまうのでは？

白井：僕は若い方が試行錯誤していろいろやってるのを、論点を整理して理事会なり総会なりで最終的に決めて行くという形であればいいのかなと。細かい意見はいろいろあるけど、僕は言わないで若い方がどうして行くかそれが大切かなと。

岸：年初からミーティングの場を設けて、茅野さんや梅本さんにも参加していただきましたが、経験を踏まえた意見をいただきましたので、理事の枠でくくらずともいいと思っています。

白井：議論を全て議事録であげる必要はないとされていて、錯綜してしまう。準備委員会で整理して出していくのが大事な。そうしないと議論が行ったりきたりしてしまう。
法人化にしても、サロンそのものをそのまま法人化するのか、発起人を募って法人を作って会員と二重構造で行くのかそれも行ったりきたりでしょ。

中塚：それについて、大体腹は括れて来てます。

白井：メーリングリストでも、PT で動いている人と、そこらへんの兼ね合いをどうするのか、法人って何をするのか？ 「事務局でやってることをやるのが法人化なの？」と書きましたが、そのところは整理の仕方、こうこうで5月まで検討しますとなればそれはそれでいいんですが。

6) 1号議案のポイント

中塚：1号議案のポイントは、「引き続き検討します。だけど5月に結論を出します」ということです。

検討の場として、理事会とは別に準備委員会を設立し、理事は全部はいると思いますが、専門性を持つ会員だけでなく会員に広く意見を受ける場にするということです。

白井：意見の受け方としては意見を受けるときに項目にある程度絞っていくほうがいいのでは？

中塚：おっしゃる通りで、この一年の議論の積み重ねを元に、論点はいくつかに絞られているので、そのなかでこの案についてはどうですかとやっていけると思います。

金子：あと3ヶ月もないので、準備委員会を設置したら翌日には骨格をバンと出さないと意見が出てこないですね。今でも事業の中身が見えてこないという意見が出ているので。サロンの会員の方で、今までのサロンに不満のある方はいないと思うのですが、実際に切り盛りとか、まわしていくと問題も出てくる。法人化することでサービスがどうなるかを見せていかないと出てこないですね。

笹原：今までのサロンに不満がある方はいないだろうと。

白井：今まではゆるい関係の中で言ったことが動いていくという面白さもあったわけですね。それがなくなってしまうのでは、というのもありますね。なんとなく宮川さんなんかはそんな感じで言ってますよね。

金子：宮川さんも自分がクラブをやっている大変さがあるので、こうなるとサロンができなくなっていくのではないかとことなのでは。

本多：この議案に対して棄権 2 名、反対 2 名で、その方の意見を拝見すると、「明確になっていない」「わからない」という意見なので、準備を進める中でその点を明確にして議論を進めていくということによいのではないのでしょうか。

笹原：反対や棄権の方の論点は、決定を先延ばしにするかいま決めるというのではないんでしょう。延ばしたあとサロンが法人化するのがいやだといっているのでは？ 先延ばしするのではなくて。

参加者：中身が詰まってない

笹原：5月でも無理だろうと。

白井：僕も内心そういう部分もあって、反対はしないで応援はするけど、ちょっと心もとないなど。不安もあるけど、まずは法人化する人たちが何をやるかというミッションが見えてこない。法人化の過程のなかで自分たちが何をやりたいのかを明確にしていく。まずは自分たち。それを信頼して任せていく。そういう大きな枠組みですね。

中塚：一号議案のところは本多さんの言っていたいただいた整理の仕方に尽きるかなと思います。棄権の 2 票と反対の 2 票を汲み取りつつ、まだ「わかりにくい」という部分があってそれが棄権や反対につながっているということを今後の準備委員会の議論で急いで示していくということで一号議案を進めさせていただきます。よろしいですか？
採決は取りませんが、賛成多数として決議いたします。

7) 一号議案についての補足

中塚：一つ確認ですが、準備委員会の委員長は中塚理事長でよろしいですか？ 松村さんには「スピードを上げていくため」ということをご理解いただくということで。

笹原：本多さんが先ほどおっしゃったとおり、理事長だから反対意見は取り上げないということはないですね。

白井：いい易さというところでどうかなという議論はないわけではないですよ。議長は違う方でも良いかもしれない。

浦和：年度末をはさんで 5 月に総会をという期限を考えると、中塚さんが適任ということで説明できるのでは？

中塚：5月は本当にすぐですよ。日数で言うと 40 日程度で、年度末をはさみますし。

第 2 号議案 2014 年度の会員募集について

2014 年度の会員募集は 2014 年 5 月の定期総会後に行うこととし、それまでは 2013 年度の会員が引き続き会員資格を保有するものとしたたく、ご承認をお願いいたします。

(「議案および参考事項」より引用)

岸：第 2 号議案は賛成 51 名 委任 20 名となります。反対や棄権はありませんでした。

中塚：ここはみなさんよろしいですね。採決は取りませんが賛成多数として決議いたします。

白井：(会員は) 形がはっきりしてから募集ということですね。

岸：5月までに入会の希望者があった場合の対応はどうしたらよいですか？

中塚：半期入会の手続きでいいのでは。本年度分の会費を納入の上、来年度は免除ということで。しかしその権利は失効する可能性がある(笑)

白井：法人化の議論をしているのでお預かりという形でもいいのではないですか？

中塚：びわこ成蹊の片上さんは今年に入って入会されました。関西サロンの帰りでたまたま東京駅でばったり会ってそんな話になり、サロンへの入会の意思を伝えられたのですが、法人化の議論中なので待ったほうが良いとお伝えしたのですが入会されました。ごく最近入会された大河原さんは本校サッカー部のOBで、昔からサロンのことは知っていましたがなかなか入会には踏み切れませんでした。あえてこの議論の渦中に加わりたいと入会されたようです。それぞれ個別に対応していけばよいと思います。

3、高田理事の退任、退会連絡への取り扱いについて

中塚：議案にはありませんが、高田敏志理事が、理事を退任し、サロン 2002 からも退会したいとの連絡がありました。その連絡を受けてからすぐ、こちらから何回も電話連絡をしているのですが、取ってくれない状態です。

去る者は追わずではありますが、年度初めに退会の意思表示をしてやめていく方はいたけど、こういう形でやめられる方はほとんど記憶にありません。また規約上、理事の欠員ということであるなら補充しなくてははいけません。

岸：サロン規約第8条3項ですね。「役員に欠員が生じた場合は後任を選出することとし、その役員の任期は前任者の残余の期間とする」

白井：理事の定員はあるの？

岸：規約第7条に規定があります。理事は6人ですね。

中塚：5月までの理事を選任するかどうかですが、理事長原案としては「欠員のまま5月まで会の運営を行う」でどうでしょうか？

本多：選考委員会を立ち上げて理事会にはかって総会で決議するまで2ヶ月はかかりますね。

白井：「辞めるとしても、後任が決まるまでは定員があるのだから、そこまでは仕事は残って理事にある」ということではないのでしょうか。承りましたけど、選考が間に合わないのの後任が決まるまでは名前が残るといふことでいかがでしょうか？

笹原：どちらにしても次の総会でないと決められないですね。

本多：5月の総会を考えると、今日から選考委員会を走らせないといけないですね。

白井：一応選考委員会は走らせておいて、正式には総会で決めるので名前残しておく。実際は5人の理事で決めていく。

田中：理事の任期は2013～14年度ですね。1年持たず途中退任ということですね。

中塚：その通りです。それでは規約通り、選考委員会を立ち上げて進めて行きたいと思います。慣例により、選考委員会委員長は副理事長にお願いしているので、笹原さん、お願いします。

本多：理事二人、理事以外から二人なので、理事の方はあと一人ですね。

笹原：わかりました。選考委員の選考はどうすればよいですか？

本多：役員候補者選考委員会を理事2名、理事以外2名の計4名で組織し、理事会で承認します。

笹原：どなたかやっただけの方は？

奥山：書類上の形ですよ。実際に選出に関わるのではなく（選考委員についての質問）
それでは私やります。

笹原：あとお一方いらっしゃいますか。

白井：理事をお願いしたい方を選考委員にすると理事に推せないですね。いらっしゃらなかったら選考委員は私やりますよ。

中塚：ここに理事も全員そろっていますので、選考委員会委員長は笹原、理事から本多、理事以外から奥山、白井の4名でお願いします。
以上で総会の審議を終了致します。

<総会開始後到着者の自己紹介>

中塚：遅れてこられた方に自己紹介をお願いします。

田中：静岡から来た田中です。学会のついでに伺いました。

法人化については、昔から言っているなど思っただけでしたが、具体的に盛り上がってきているなど、最初は冷ややかな目で見てはいましたが、私もかつては理事をしていましたし「オリジナル10」から入りたいなど住所録を出したりもしたので、議論に加わりたいと思い参加しました。選挙も法人化するとなるとオープンにしなければいけないし、生徒会の選挙とは違って来るんですね。自分が高校生のときクラスの選挙管理委員をやっていたのですが、学年で立候補者がいないとき、顧問の先生が「お前やれ」と。選挙管理委員なのに立候補させられて生徒会長になったという経験がありまして、高校の選挙でも300人くらいいると一人くらいは「おかしい」と異議を唱えてくるやつがいて、僕は彼に生徒会長をやってほしくていろいろバックアップしたのですが、結局私がやることになりました。

こういう時代なので、法人化とは公に認められるということなので、しっかり議論をしているということを示していくのも大事なかなと

皆さんの中でNPO学会に入られている方いらっしゃいますか？レジュメしか読んでいないのですが、発表のなかでNPO法人のあり方とかあるのですが、一番の見所は、どうしてこのNPO法人は潰れたのかというのがありまして、サロン2002もぜひこういった学会に参加して、会員を集める機会にもなりますし、ぜひそういう組織になってほしいなと思っています。

私もサッカードクターの名簿にサロン2002会員と書くこともあるのですが、そうすると「サロン2002」ってなんですか？と。知っている方は知っているのですが、やはり全然知らないんですね。シンクタンクみたいなもので、皆さんのいるところでもそのようにできればと考えていますよとお伝えしていますが、実体がなくてHPをみれば分かるのですが、NPO法人となると重みも変わってくるのかなという気がしないこともないので、どんどん推進してほしいと思っています。

実際の旗振り役の一人をやりたいと思うのですが、時間的、物理的にも難しい面もあるのですが、議論には関わりたいのでよろしくをお願いします。

白髭：白髭です。今日は東京マラソンの取材で遅れました。高校サッカー年鑑で中塚さんとお知り合いになり、誘われたのがきっかけで月例会には来ていたのですが正会員になって2~3年です。

法人化の話の中で一番大事なのは、外からサロン2002という団体を見て、中がちゃんとしているかという一つの基準が法人化だと思います。私が参加している日本オリンピックアカデミー、日本スポーツプレス協会も、そもそも任意団体だったのですが、こういう世の中の流れの中で、外から認めてもらおうと法人化しました。緩やかなサロン2002であってほしいという方の気持ちもわかるし、法人化という気持ちも分かります。

日本オリンピックアカデミーは、議決権を持つ正会員と議決権のない賛助会員の二重構造になっています。理事会が法人化の方向に進んでいますが、私もその方向に進んでいけないと考えています。

藤田：皆様お疲れ様でした（一同笑）。来た瞬間に終わってしまい、皆さん何しにきたのとお思いかもありません。藤田捻人と申します。サロンとの関わりは、東京に住んでいた2004、05、06くらいま

で、いまは札幌に住んでおります。札幌に移ってからはメールや会議録を眺める幽霊部員となつてしまいました。そうこうしているうちに、一大事だと。たまたま今日は東京にいたので参加しましたが、来たら終わっていました。このあと延長戦もあると思うので、その際、皆さんと意見交換できたらと思います。

メーリングリストを拝見していて、意見を言える場があるのがいいなと思ってます。1号議案を見ても、賛成 47、反対 2、と。自分は大学では政治学専攻でしたが、好きな言葉がありまして「民主主義に全会一致はない」と。緩やかなネットワークの中でも、サッカーのことを真剣に考えて、サロンのことも真剣に考えて、反対意見も言う場があつて、健全な組織なのかなと。これからも幽霊部員かもしれませんがよろしくをお願いします。

<法人化に向けた意見交換会>

1. NPO立ち上げ趣旨書、社員一覧の説明

中塚：皆さん資料は行きわたりましたでしょうか？ 1回目の準備委員会のような感じですね。

まずお渡ししたのは設立趣意書で、その裏に、NPO 法人立ち上げに必要な 10 名以上の社員のリストがあります。いまのところちょうど 10 名います。サロンの役員を理事・監事というようになったのは 2004 年度以降です。それ以前は幹事・監査役と呼んでいました。2004 年以降、理事・監事、それに運営委員を加えてやっています。まずは歴代の理事・監事の方々に、NPO サロンの会員（社員）に名を連ねてもらっていいですかとかがいました。ここには OK の返事をいただいた方と、自主的に名乗りを挙げてくださった方の名前が挙がっています。10 人目は茅野さんです。NPO 法人設立要件の 10 人以上の社員は確保されているわけです。

この 10 名以外にも、入りたい方は声をかけてほしいですね。特に法律に詳しい方にはぜひ！

白井：NPO には詳しくないですが、応援する分にはいろいろあるとは思いますが。

2. 公開シンポジウムについて

中塚：3 月 30 日の公開シンポジウムは「法人化について語る」なので、このときも拡大準備委員会のような形になるでしょう。かなりおもしろいシンポジウムになると思います。「日本最初の社団法人神戸 FC を最高齢ジャーナリスト賀川浩さんが語る」。社団法人になるときの張本人ですよね。みなとラグビースクールの黒崎さんについては嶋崎さんからお願いします。

嶋崎：黒崎は明大中野高校から明治大学ラグビー部で活躍しまして、みなとラグビースクールを港区で立ち上げ、NPO 法人としては 1 年くらいですが、その間のお話をいただきます。プレーヤーとしてはかなり、私が国体選抜に関わったときの選手でもあります。

中塚：水上博司さんは元サロン会員です。サッカー協会の指導者養成講習会「サッカーの社会科学」を一緒にやってくれた仲間ですが、クラブネッツという、スポーツ組織のネットワークづくりを志向する NPO の副理事長をやっておられます。この NPO の理事長は、福島大学の黒須さんです。認定 NPO を取るのがものすごく大変だったと伺っています。その苦労話をお聞きしたいと。それと水上さんからは、サロン会員に復帰したいと伺っております。

後援団体は調整中としていますが、NPO 法人クラブネッツは後援していただけたとのことでした。

公開シンポジウムのレジュメの裏側ですが、サロン 2002 とは何かと問われたときにお渡ししている唯一の資料です。もうちょっとわかりやすいリーフレットがあればとは思っています。

3. スポ研サロン運営の現状

中塚：サロンの現状を知っていただくために、平成 24 年度のサロン収支決算書を配布しました。サロン史上初の赤字決算…。遠くに行き過ぎたというのが問題かな。

平成 25 年度予算案、収支決算書案、月例会収支をそれぞれお配りしました。

月例会については来年度、もっと赤字になると思います。現在は報告書を 5,000 円で作ってもらっていますが、あまりにも申し訳ないので、せめて 10,000 円は出そうと思っています。これらの事業のつくりも見直さなくてははいけません。

設立趣旨書、名簿、事業計画書、活動予算書以外に岸君が作ってくれたサロンの法人化案の図表をお配りしています。最初の案では、サロン 2002 自身が NPO 法人化し、その中に議決権を持つコア会員と議決権を持たないサロン会員に分けるとい、先ほど白髭さんがおっしゃった日本オリンピックアカデミーと同じやり方を想定していました。

この形を示した際、サロンがサロンでなくなるという印象を会員に与えてしまい、特に関西からそのような意見が出ていたのは皆さんご存知の通りです。その後、かながわクラブの NPO 法人立ち上げに関わられた茅野さんから提案されたのが、それ以外の図になります。岸君から説明していただきます。

4. 事務局組織の NPO 法人化について

岸：当初の形は、サロン 2002 そのものを法人化して、その中にサロン会員とコア会員に分けようというものでした。“志”や“GIVE&TAKE”はサロン会員・コア会員共通のものとし、議決権をもつ会費 10,000 円のコア会員と、ネットワークを構成している会費 4,000 円のサロン会員に分けようと。シンポジウムやプロジェクトはサロン会員でもコア会員でも参加できますし、会員外の方もこういった事業に参加できるので公益性を保てます。サロン事務局もネットワークのなかの人で担っていく。そのような形を当初考えていました。

このとき反対が多かったのが、ゆるやかなネットワークだったものがコア会員、サロン会員と分かれてしまうという意見でした。

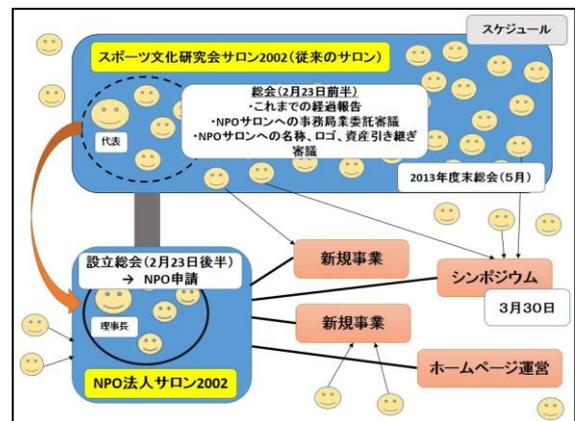
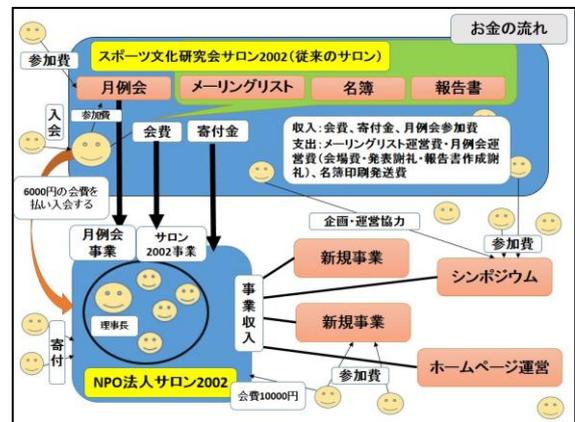
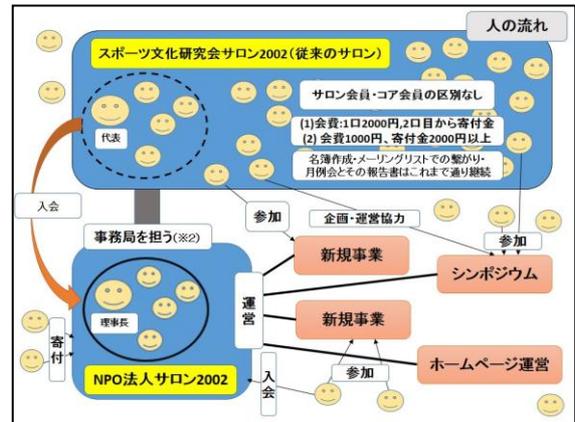
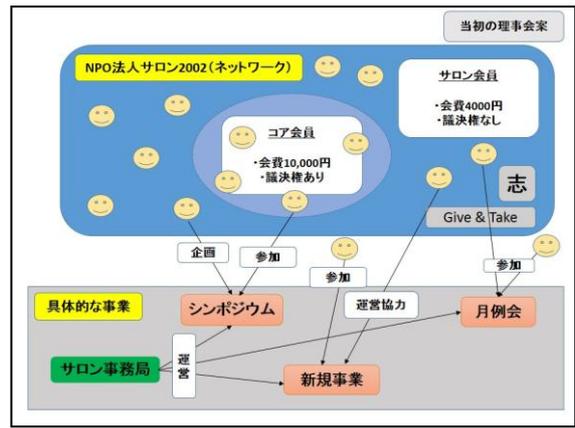
そのなかから出てきた意見がそれ以外の図になります。今までどおり、ゆるやかなネットワークの中で一律同じ会費を払う。NPO 法人化する部分は別個、外に新しく立ち上げ、そちらで事務局機能を担い、その社員はいままでのサロン 2002 の会員もしくは会員でなかった方も別途入会するという形です。

そのときに、NPO 法人が新規事業やシンポジウムの担い手になるのですが、そちらにはスポーツ研究会サロン 2002 (スポ研サロン) の会員が今までどおり企画したり参加するという形になります。

今までは役割があいまいで、中塚先生をはじめ事務局に負担がかかっていましたが、NPO 法人化して負担を減らそうという考え方です。

今までのサロン 2002、すなわちネットワークとしてのスポーツ文化研究会サロン 2002 (スポ研サロン) は、NPO 法人サロン 2002 の事業の一つという形になります。

ネットワークとしての従来のサロン 2002 では、会員は会費を払って月例会案内、メーリングリスト、名簿、シンポジウム報告書といった特典を受けていました。月例会は参加費を払えば外部の人間も参加できるし、シンポジウムにも参加できます。会員は誰でもなれるし、会費を払えば名簿、シンポジウム報



告書、サロン ML を会員特典としてセットで得ることができます。

NPO 法人サロン 2002 は、スポーツ文化研究会サロン 2002（スポ研サロン）からの会費と新規事業、シンポジウムを行い運営していく。

5月まで伸ばす前の PT での考えでは、今日（2月23日）NPO 法人を立ち上げを行い、従来のサロン 2002 の資産（名称、ロゴそのほかの資産）を NPO 法人サロン 2002 に譲渡する決議が必要だという考えでした。

中塚：この図や予算書をみながら、あと 30 分くらい意見交換しましょう。

白井：当初の案でコア会員とサロン会員と分断されているような受け取られ方をされましたが、今の図の NPO 法人サロン 2002 とスポーツ文化研究会サロン 2002 も、同じように二重構造となっています。当初のネーミングが問題だったのでは？

NPO 発起人とかそれに順ずる中心メンバーがコア会員で、それ以外がサロン会員という話ですが、例えばもともと組織があったところが、NPO 法人化するにあたり、元の会に口を出させないために、議決権のあるコア会員と議決権のないサロン会員とに分けたと。サロンは今まで、皆が平等の権利があったのを分断しているのが難しいと捉えられたのでは？

中塚：白井さんは、第 1 案は難しいとお考えですか。

白井：これでもいいけど、コア会員とサロン会員っていう名称が、コアって「俺たちが中心だぞ」という感じでしょう。そう思っているかもしれないけれど。

参加者：A 員、B 会員でもよかったです。

白井：やり方としては発起人のところ、運営のところは 6,000 円なり払って、会員は一律 4,000 円という手があるかな。二重構造の組織があるよりは一つのほうがいいかな。混乱するのでは？ またもとの議論が蒸し返される。

もしくは腹を括って、賛成という方が下駄を預けている方は賛助会員でもいいという意見なのだから、サロンを発展的解消して再募集してもいいかもしれない。引き継ぐならそれでもいいですが。

中塚：日本オリンピックアカデミーが法人化するとき白髭さんは会員でいらっしゃいましたか？ またそのとき同じような議論はありましたか？

白髭：あまりなかったですね。先ほど話したように、外からの見た目が NPO の方がいいという感じでしたね。

白井：お金の問題もありますね。NPO のほうが集めやすい

白髭：ほかの JOC に加盟する団体がほとんど法人化していたので、「ちょっと遅れた、うちもならなきゃ」と法人化しました。岸記念体育会館に事務局も持てたしメリットはあったと思います。

岸：最初の案から組織を分ける案が出てきた理由の一つは、NPO 法人の公益性が担保されるのかという問題もありました。分けたほうが NPO 法人の一つの事業として月例会が位置づけられるという意見でした。最初の案は同窓会組織のような閉じた組織と見られてしまう。

白井：発起人がいて、会費は寄付金みたいなものでしょ。

本多：公益性というのはどこにかかってくるのでしょうか？

岸：NPO 法人の申請時です。

白井：発起人がいて会員を募集しています。事業には次に挙げるものがあります、で良いのでは？

5. 会費値上げについて

白髭：今は会費 3,000 円ですが、4,000 円にするのは何か意味がありますか？

中塚：それは、お金が足りないから（苦笑）

金子：変えないほうがいいですよ。変えるなら説明しなくてははいけない。そうすると反対する人が出てくる。「何をやるために上げるの？」と。お金が足りないなら 10,000 円の会員を 10 人から 15 人に増やすとか、会費を 15,000 円にするとかしたほうがいい。100 人の会費を 1,000 円上げても増収は 10 万円です。

6. 名簿作成について

浦和：お金が足りないという話で毎年思っていたのですが、名簿作成、発送のコストはかなりの額だと思うのですが、本当に全会員に発送する必要があるのかなと。毎年新しいものをいただくたびに、古いものの処分にも困っています。個人情報のかたまりなので。

中塚：あれはすごいよ。

浦和：たとえば基本的に理事の方が持っていて、あとはプロジェクトを立ち上げようとしているなど、必要な方、希望する方に別途実費徴収してお渡しするのもよいのではないかと思っています。シンポジウム報告書は紙になっているほうが読みやすいし読んでもらいやすいので必要なかと思えますが。

白井：お金をどう節約するかと、戦略的にどうおちこぼれを出さないかは違うよ。会費を上げずに発起人のところでどうするか、見せ場でもあるわけですね。

中塚：実は浦和君の意見はすでにいろんなところで出ています。「希望者にあげます」となったとき、浦和君はどうしますか？

浦和：僕はいらぬですね。持っていることのほうが怖いので。

笹原：持っていることが怖いのは理事も同じだね。

浦和：古いものをどう処分したらよいか、頭を悩ませています。

白髭：シュレッターだね。僕は会費 3,000 円でこんなすごい名簿くれるのかと驚きでしたね。

中塚：北海道在住、藤田君は？

藤田：毎年送っていただいてありがとうございます。僕は送られてくる分には困らないですね。名簿なり報告書なり、必要な方は別途 4,000 円なり 5,000 円なり払って、いらぬ方は 3,000 円とかでもいいのかなと思っていました。ただこういうご時勢なので、全部を本にしなくてもいいのかなとも思います。かといって名簿を電子データで送るのも危険ですし。

白井：こういうスタンスでやっているのは面白いなど。最近細かい中でね。書くのは面倒だけど。

白髭：読んでいるだけで面白いですよね。この人はこんな考え方なのだ。

中塚：名簿が入会の動機になっている方もおられると思います。あの名簿をみて、こんな人がいるんだ、一緒に何かやってみようかと連絡を取ってみて。フットサル関係で、そんな感じで展開したものもありますよね。

笹原：入会時に送付されると「おっ」と思われるでしょう。でも毎年はいらぬかな。浦和さんがおっしゃられたように、ほしい方に差し上げるというのも一つの方法だし、会員だけが開けられるサーバーか何か置いておくという考えもありますね。

白井：お金の節約はいろんな考え方ができるけど、今は 4,000 円じゃなくて 3,000 円でいくのもありかなと思います。

岸：赤字が理由で値上げとなると、名簿の作成とシンポジウム報告書の作成でそれぞれ 15 万円くらいかかっていて、サロンの出費のかなりの割合を占めています。

7. 法人化議論の整理

白井：法人化の議論と赤字の議論は分けてやったほうがいいですね。事務局だけでも法人サロンと研究会サロンに分かれているでしょう。

笹原：会費のところなぜ 4,000 円かというのと、認定 NPO を目指すことに関係しています。認定 NPO を取るには 1 人 3,000 円の寄付を 100 人から集めなくてはいけなくて、4,000 円にしておけば、1,000 円は実費、3,000 円は寄付にできるかなという議論がありました。

金子：それは今回やることではないですね。

白井：認定 NPO なんて簡単には取れないんだから。志はいいんだけど土台がしっかりしていないと。前提問題が崩れるんだから。大事なはこの枠組みなんだ。

本多：事務局を外に出すのかサロン全体を NPO にするのが一番大事な議論だと思います。事務局を外出しにする必要性が腑に落ちないのですが。いまのままでも公益性は担保されると思いますし。

白井：宮川さんが意見を出されているのを説得する流れの中でこの意見が出てきたのでは？

本多：ゆるやかな、からはさらに離れていってしまうわけですね。「俺たち」と「やつら」になっちゃうのでは？

岸：一体感は失われなと思います。茅野さんが、サッカークラブを例に出して言われていたのは、スポーツ文化研究会サロン 2002 をクラブだとすると、クラブ運営のフロントが事務局だと。フロントだけが NPO 化すると。

白井：スクールのようなサッカークラブの会員は、サロン会員よりもう一つ外なんですよ。だからサッカークラブは事務局がもともと外だから、その議論が成立する。

笹原：会員の方が言われていたのですが、わがサロンがいろいろな事業をやる、そのなかでオリンピック教育がある。「俺はいやだ」と。「わがサロンがオリンピック教育に関わるのはいやだ。」という意見もある。いま提案している形だと、スポーツ文化研究会サロン 2002（スポ研サロン）ではなく、NPO 法人サロンがひとつの事業としてやる。となると、スポ研サロンは NPO 法人がやっている一つの事業だと考えると理解していただきやすいのでは。

白井：何をやるかだよ。実際やっていくなかでいろいろ出てくるとは思うけど。最初のところで、その会員の方はオリンピック教育に反対ということだけど、フットボール中心に何を母体として何を中心にやっていくかは大事ですよ。派生的なところでオリンピック教育もやっていけばいい。

8. 新規事業のアイデア

中塚：残り時間で、これから何ができるかを話していきましょう。

オリンピック教育という中では、3 月 11 日に JOA のメンバーで国内ユースフォーラムの作戦会議をするのですが、NPO 法人サロン 2002 の新規事業の一つとして考えられるのではないのでしょうか。一朗君とか河原君とかいかがですか？

河原：この一年、メールは読んでいたのですが。事業があって、あるべき形が見えると思うのですが、どなたかの意見にもありましたが、「今後の事業が見えない」など。

先ほどからテクニカルな話をされていましたが、新規に入ってきた者、距離を置いていた者として

は議論に入りづらいですね。新しい事業があってどうするのかという話があると議論に入っていくとやると感じます。サロンはゆるやかなネットワークを維持するということがわからなかったのが、では新規事業は何をするのかということです。サロンを利用して何かできるのかと。たとえば「途上国への支援事業や交流事業」というなかで、事務局がどうあるのかか話せるのではないかと思います。

9. スキンプロジェクトの可能性

佐藤：僕は DUO リーグのトロフィーを製作していく中でサロンに入会しました。サッカーが好きで、けど大分の地元にはサッカー部がなくて遊びでサッカーをしていたのが入り口で、サッカー選手になりたいではなくて、サッカーのスパイクを作りたいという志から東京に出て靴の道に進みました。サロン 2002 は、スポーツをプレーする方だけでなく、スポーツに関わってこなかった方も入ってこられる場だと思っています。スポーツを通じて文化を広げていく。スキンプロジェクト自体が、スポーツと文化とものづくりをつないでいく事業なのですが、ちゃんとした事業にはなっていないで、金銭面の流れをうまくいかせるためにも法人化というのは必要だと考えています。そのなかで我々のプロジェクトも新規事業として関わりたいとは考えています。

中塚：補足すると、この DUO リーグ・トロフィー（注：この日は議長席に飾ってあった）は、部室に置いてある、「履けなくなったスパイクから作った履けるトロフィー」で、これを作るプロセスをスキンプロジェクトと呼んでいて、いまではリサイクルプロジェクトとも言っています。部室には履けなくなったスパイクがたくさん眠っていて、皮の宝庫です。けど、燃えないごみとして捨てられる。そうではなく、何かできないかというところからスタートした企画です。いまは DUO リーグの一事業となっていますが、試合の勝ち負けにしか興味のない人たちが多いので…。部活先生にはそういう方が多いですね。なかなか展開していかない。僕や岸君や（佐藤）一朗君が中心にいろいろやっているのですが、うまく生かし切れていないと感じています。DUO リーグから切り離し、むしろサロンの一事業と位置付けて、DUO リーグなどを舞台に展開していくというつくりにする方がやりやすいのではないかと考えています。

浦和：たとえばスパイクから靴とか？

佐藤：説明が足りなかったかもしれませんが、スキンプロジェクトはサッカーだけに特化してなくて、スポーツでいらなくなったものから何か広がられる事業になればなどはと思っています。

浦和：通信販売するというのは事業としてはどうですか？

佐藤：実は販売する力がわれわれになくて、サロン 2002 のロゴを作っていたいただいた土谷享さんというアーティストと一緒にやっていて、美術館のミュージアムショップでサンダル（スパイクからリサイクルした作品）を 20,000 円で売っているのですが、全然売れなくて…。

浦和：いま販売しているものはアーティストとして作った作品なのでしかるべき値段をつけて売ればよいと思います。それ以外に、作品ではなくて商品として、もう少し気軽に買えるものはないでしょうか。会員の方の中には商売のセンスがある方もいらっしゃると思うので、企画して販売していければそれがサロンの新規事業にもなるのでは？

白井：それはそれでいいんだけど、今のところでもサッカー部員は「時間がないね」と興味を持たないだろうけど、そういう視点じゃなくて、周辺の、たとえばその高校の美術部員とか関心がある人と一緒にやってサッカー部員との交流を図るとか、フットボール文化を広めていってみんなに手伝ってもらって売れるものは文化祭で売るとか。サッカー以外のかかわりを作る機会になるのでは？

佐藤：実はそういったことをやりたいんですが、なかなか難しくて。

白井：高校生はチャンネルを持っているのだから、うまく使ってやるとか、試合を放送部員に撮影、編集させて学校や近くのお店で放送するとかもメディア教育になりますよね。

笹原：一朗さんたちがそういった事業をやったとき、いまのサロンの ML 等で流しても「なにそれ」

となる。私個人も、スキンプロジェクトをメールでは知っていましたが、あまり興味を感じなかった。しかし NPO 法人の一事業としてやるとしたら、スポーツ文化研究会サロン 2002 とは別のところでやりたければ、となるのが下の図（NPO 法人とスポ研の二重構造）の良さだと思います。

10. 新規事業とサロンの“志”の実現

白井：フットボール文化をどう広めるかというのがサロンの一番の目的だと、私は思っています。その手法として何があるか。そのなかの一つとして目に見えるもの（スキンプロジェクト）も必要だし、「サッカーやるだけでどれだけ廃棄物を出しているんだ」と。ナイキでソールの部分を破砕してコートを作る事業があるんだけど、日本から持ち出すと産業廃棄物の輸出になって駄目だという議論があるんだけど、でも「あなた方サッカーやってどれだけ靴つぶしているんだ。どれだけの産廃ですか？」と分解していくと面白い視点ですよ。それはサッカー部員や大多数のサロン会員を対象にしなくてもいい。ターゲットは高校の美術部員とかもっと大人でもいいと思うんだけど、そんなことも事業として、成功するかはわからないけど、サッカー文化として面白いかな。

笹原：“志”を実現するということですね。一つの活動はこういったもの、また別のやり方はいままでの月例会を中心としたスポーツ文化研究会サロン 2002。それぞれが必ずしも一体で動く必要はなく、両方を運営するのが法人のサロン 2002 というのはすっきりすると思います。

11. 何のために法人化するのか（サロン 2002 の永続性の担保）

奥山：中塚さんはこの方が動きやすいですか？

中塚：これ（NPO とスポ研サロンの二重構造）が整理しやすいなどは感じていて、こちらに移ってきてます。ただ一つイメージできないのが、スポ研サロンの代表と NPO サロンの理事長の両方が私だとすると、スポ研サロンの代表の仕事にプラスして NPO の理事長の仕事が加わるといったいどうなるんでしょう。なんか怖いなど。

白髭：スポ研の中塚さんは理解されやすいけど、NPO サロンの中塚さんは金儲けしているんじゃないかと見られるかもしれないですね。公務員としてもどうかなど？

中塚：公務員としてもそうだし、作業量も。

奥山：スポ研のほうは事務仕事を分解していくと岸さんでもいいのでは。

浦和：逆に NPO サロンは中塚さんでもなくても成立するのでは。

岸：NPO 法人は事務組織なんですよ。

奥山：将来そういわれるなら、サロンは中塚さんと運命をともにするから中塚さんの動きやすい形でのいいのでは。

浦和：中塚さんが将来、スポ研サロンの代表や NPO の理事長ができなくなってもこのネットワークが続いていくためにこの議論をやっているのではないですか？ ここで形をしっかりと議論するのは大事だと思っています。

白井：そのために、組織はシンプルなほうがいいんじゃないの？

田中：この図では下に描かれていますが、NPO サロンは上ですよ。NPO の一つの事業としてスポ研サロンがあるし、DUO リーグがあるし HP があるんですよ。いまのサロン HP ではスキンプロジェクトの話はリンクしづらいが、NPO の一つの事業としてならリンク先に盛り上がっている掲示板があってつながっていく。本当は NPO 法人が上に来ないとね。

浦和：上にしたら、「何で NPO が上なんだ」と議論が戻ってしまいますね。

岸：メインがスポ研サロンで、それを支える組織として NPO 法人を位置づけたほうが理解されやすい

と考えています。

白井：理念があって、いままでやっていた月例会、シンポジウム、それを広く外に伝えたい。それを広める HP というのがあって、そこに新規事業が入ってくると思う。NPO 法人化に際して新規事業をという気持ちはわかるけど、見せ方は違うのでは？ 新規事業はその都度広げていけばいい。

本多：NPO 法人化で中塚さんの仕事は増えるんだろうなというのが一つ。もう一つは中塚さんが 6 月に非常に危険な場所（ブラジル）に行かれますが、何かあってもこの会が永続するためにということで議論していくのは大事だと思います。

ここでは中塚さんの顔を見て議論をしているので、スポ研サロンの代表と NPO の理事長を兼務することに違和感を抱きませんが、客観的に考えてみるとおかしい。一つの団体の運営を一つの NPO に随意契約してその代表者が同じというのは、でき上りの図としては問題があるように見えるのでは？ 今後どちらかの代表者を中塚さん以外にすることも含めて慎重に議論する必要があると思います。

白井：事務の手間は、いまやっていることを NPO で手直しすれば大体クリアできると思います。新規事業のところだけですが、そこも PT などやっていけばいいと思う。コア会員とサロン会員のところがうまく一緒に賛助会員という形で付いて来てくれる形をどう作るかですね。

中塚：時間もちょうど 5 時になりました。場所を変えて続きをやりましょう。

（続きは「ルン」で…）